



大会概要

2025年 SUPER GTシリーズ 第1戦

大会名称

2025 AUTOBACS SUPER GT Round 1 OKAYAMA GT 300 KM RACE

開催日時

4月12日 土曜 (予選) 4月13日 日曜 (決勝)

開催サーキット

岡山国際サーキット (1周 : 3.703km)

所在地 : 岡山県美作市滝宮1210

主催

株式会社 岡山国際サーキット / アイダクラブ (AC) / 株式会社GTアソシエーション

公認

国際自動車連盟 (FIA) / 一般社団法人 日本自動車連盟 (JAF)

認定

株式会社GTアソシエーション

後援

経済産業省 / 国土交通省 / 自由民主党モータースポーツ振興議員連盟 / 岡山県 / 美作市 / 岡山観光連盟 / 美作国観光連盟 / 岡山県経済団体連絡協議会 / 一般社団法人岡山県商工会議所連合会 / 岡山県経営者協会 / 一般社団法人岡山経済同友会 / 岡山県中小企業団体中央会 / 岡山県商工会連合会 / 山陽新聞社



◆ 参戦体制

■ ドライバー



片山 義章
YOSHIAKI KATAYAMA

生年月日 1993年11月13日
出身地 愛知県
身長 168cm
体重 69.3kg
血液型 RH+O



ロベルト メリ ムンタン
ROBERTO MERHI MUNTAN

生年月日 1991年3月22日
出身地 スペイン
身長 178cm
体重 70kg
血液型 RH+O

■ 代表

古場 博之

■ 監督

小倉 啓悟

■ スタッフ

チーフエンジニア
チーフメカニック

Mattia Oselladore
片岡 恵人

■ スポンサー

アスカ株式会社

株式会社アート買取協会

株式会社C I S

株式会社デジテックエイチピー

O I R C

朝日金属株式会社

T O N E 株式会社

株式会社マイティミズタニ

ニチアス株式会社

城東電機株式会社

学校法人高岡学園 高新自動車学校

サンディスク株式会社

ザーレン・コーポレーション株式会社

有限責任中部総合監査法人

DOBOTジャパン株式会社

ARMS株式会社

エバー株式会社

見田工作株式会社

株式会社コスモ開発

愛知電線株式会社

岡田金属株式会社

菅原金型株式会社

株式会社ソフト99オートサービス

有限会社大和工業

M I D T O W N B B Q

大成土木株式会社

青山エレベーター株式会社

株式会社エイチアンドエフ

医療法人社団ヒロデンタルクリニック

カトー機械株式会社

株式会社ジョイフル設備

◆ 予 選

天候	晴れ
コース状況	ドライ
気温	23℃ (GT300クラスQ1開始時)
路面温度	31℃ (GT300クラスQ1開始時)
予選開始	14時00分 (GT300クラスQ1-A組開始)



Team LeMansは本年度より正式にエントラント名をVELOREX とし、昨年に引き続き、FERRARI 296 GT3を投入してSUPER GT GT300クラスに参戦する。同クラス参戦5年目となる今シーズンは、昨年に引き続きマシン名を「UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI」とした。一方、ドライバーは第1ドライバーに片山義章、第2ドライバーにロベルト・メリ・ムタンを継続起用。チーム体制も継続し、2024シーズンを上回る活躍を目指す。タイヤは、これまでどおりヨコハマタイヤを装着する。

今シーズンのSUPER GTでは予選方式が2023年までのノックアウト方式に戻されることとなった。GT300クラスの予選はグループA、グループBの2組に分けられ10分間の予選Q1が実施されるのは以前と変わらないが、予選Q2へは各組それぞれ1台ずつ増加し、それぞれ上位9台が進出となり、合計18台での予選Q2に挑む。つまり以前よりエキサイティングな予選Q2が観られることとなった。予選順位はQ2のタイム順で決定される。またGT300クラスは28台が参加する激戦となるため、ポイントシステムも変更され、ポイント獲得可能な順位を15位までと拡大。一方でトップ10までのポイントは1位25ポイントにはじまり、それぞれ5ポイント増となった。それにより、これまでも増して10位から15、16位の争いが激しいものとなる。なお、ポールポジションにも1点が与えられる。

#6 UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI

予選結果：5位 (予選Q1：1位 / 片山選手：1分25秒619 / 予選Q2：5位 / ロベルト選手：1分24秒764)

予選日は好天に恵まれ、9時30分からSUPER GT第1戦の公式練習がスタートした。VELOREXは事前に開催された岡山公式テスト、富士公式テストで雨の中トップタイムを記録する好成績を残しているが、ドライ路面での本格的な走行は初めてのため、チームはセットアップに余念が無い。午前中の公式練習では2番手タイムをマークし、自信を持って予選に臨んだ。午後の予選は14時00分から始まり、UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARIはQ1グループAに片山が出走。ややアンダーステアが強かった公式練習から細かくセットアップを変更し、4周目に1分25秒619をマーク。グループAのトップタイムでQ2への進出を決めた。

14時53分からのQ2では、ロベルトが4周目に片山のタイムを上回る1分24秒764をマーク。しかしライバルたちのタイムアップ幅が大きく、予選順位は5番手となり、決勝は3列目スタートとなった。

◆ 決勝

天候	雨のち曇り
コース状況	ウェットからドライ
気温	13℃ (スタート時)
路面温度	15℃ (スタート時)
決勝レース開始	13時10分 (正式スタート時刻 13時10分00秒)
レース予定走行距離	300KM 82周 (正式フィニッシュ時刻 16時05分17秒)



#6 UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI (片山&ロベルト選手)

決勝結果：失格 (2025GTAブルテンNo.012-T「最大過給圧違反」 ベストラップ抹消)

決勝日となった4月13日は前夜から雨が降り続き、時に強く降ったり、弱まったりという不安定な天候にも関わらず、14500人も観客が岡山国際サーキットに詰めかけた。11時40分から20分間のフリー走行は完全なウェット路面となり、各チームともウェットタイヤでのセットアップを進めながら、周回を重ねていく。片山義章は10周をこなし、最終的に1分47秒580で6番手タイムをマーク。しかし天気予報ではレース中盤から終盤にかけて雨が止み、ドライ路面となる可能性があるため、スタート時のタイヤ選定の判断が悩ましい。今シーズンからレギュレーションが変更され、各タイヤメーカーはヘビーレイン用深溝タイヤを1セット供給し、チームはその使用が可能になっている。スタート進行でのレースアンバサダーによるフラッグ行進は悪天候のため中止とされ、各車はピットから直接グリッドにマシンを並べることとなった。決勝スタート時は気温13℃、路面温度15℃、湿度85%という肌寒いコンディション。雨も強く降り続き、路面は完全にウェット状態。交通機動隊を先導としたパレードラップも悪天候のため中止とされ、セーフティカーの先導のまま、午後1時10分にセーフティカースタートで300km、82周レースが幕を開けた。その後セーフティカーは4周目にピットに戻り、午後1時20分に実際のレーススタートが切られた。しかしスタート直前にGT300クラスの1台がヘアピンでスピン。レースはそのままスタートが切られたが、第1コーナーを過ぎたあたりでGT500車両3台が絡む多重クラッシュが発生したため、再びセーフティカーが導入された。その後、ドライバーの救出作業を優先するため、午後1時24分に赤旗が出され、レースは5周終了で一時的に中断された。

◆ 決 勝

天候	雨のち曇り
コース状況	ウェットからドライ
気温	13°C (スタート時)
路面温度	15°C (スタート時)
決勝レース開始	13時10分 (正式スタート時刻 13時10分00秒)
レース予定走行距離	300KM 82周 (正式フィニッシュ時刻 16時05分17秒)



5番手からスタートした片山はアクシデントの混乱を上手く避けてポジションキープ。再び5番手からのスタートとなり、レースは13時55分に再スタート。セーフティカー先導のもと6周目からレース再開、各車タイヤを温めながらセーフティカーの解除を待つ。10周目にセーフティカーがピットに戻り、11周目にレースは再開。片山は冷静にリスタートするも、タイヤの内圧が上がらず1台にパスされてしまうが14周目の1コーナーでGT500の車両がコースアウトしたため、またしてもセーフティカーが導入された。17周目には隊列を整え再びセーフティカーランがスタート。19周目にリスタートとなり、21周目にGT300クラスのトップ2台が接触し、首位を走っていたマシンがコースアウト。その混乱で一時は5番手に戻した片山だったが、再び後続にパスされ、一気に7番手ヘドロップ。FCYが出されたことで気を取り直して23周目からグリーンフラッグでレース再開。再び上位を狙いペースを上げ、28周目には6番手。さらに首位を走るマシンにドライブスルーペナルティが出され、周囲のドライバー交代のタイミングもあって31周終了時には4番手まで浮上。そして43周目終了時には3番手に浮上。そして45周目に2位のポジションを奪う際に接触するものの周回を続け、46周終了時にはトップに浮上。48周終了時にドライバー交代でピットイン。しかし運転席側のドアが脱落するトラブルが発生し、大きくタイムロス。14番手までドロップしてしまう。そこからロベルトの追い上げは急で、50周目には10番手まで浮上。51周目には8番手。そして上位陣で何台かがスリックタイヤに交換するため2度目のピットインを敢行したこともあり、53周終了時には6番手、そして54周終了で4番手まで浮上。しかし、追い上げはそこまだった。片山の接触に対するドライブスルーペナルティを課された後、路面コンディションの好転でスリックタイヤに交換するため再度のピットインを強いられたことで20番手までポジションダウン。67周目にセーフティカーが出され、レースが再開すると、勝負を諦めないロベルトは、残り10周で次々と前車をパスし続け、73周終了時点でポイント圏内の15位までポジションをアップ。さらにハイペースで攻め続けた6号車は残り2周で14番手へと浮上し、レース終了時には13位入賞、3ポイントを獲得したと思われた。しかし19時17分に発表された正式結果はチームの努力の甲斐も虚しく、2025GTAブルテンNo.012T「最大過給圧違反」により失格の裁定が下された。

片山 義章 選手のコメント

決勝スタートでのタイヤ選択を誤りました。朝のウォームアップで使ったタイヤでスタートしていれば良かったのですが、やや硬めのタイヤをチョイスしたせいで、序盤の雨量とマッチせず、なかなかタイヤが発熱してくれなかったことで苦戦を強いられました。それでも歯を食いしばって頑張ったのですが、2番手を狙ってインに飛びこんだ時に相手もステアリングをインに切ってきて接触してしまい、ドライブスルーペナルティを受けてしまいました。自分のスティントの終盤はタイヤと路面がマッチしてきたのでペースも良かったのですが、ドライバー交代のピット作業で大きくタイムロスをしてしまい、さらにその時のタイヤチョイスのミスで、表彰台を失ってしまいました。ロベルトも頑張ってくれましたが、僕たちにできることは、なんとかひとつでも順位を上げることだけしか残されてはいませんでした。今日は最終的な失格も含め、自分たちには厳しい内容のレースだったと思いますが、内容的には次に繋がるレースにはなったと思います。速さが結果に結びつかず、悔しいレースではありましたが、諦めずに挑戦し続けるので、応援よろしくをお願いします。



ロベルト・メリ・ムンタン 選手のコメント

オフシーズンのテストから昨日の予選まで、チームは本当に素晴らしい仕事をしてくれて、我々のフェラーリは常にトップ争いができるポテンシャルを発揮してくれていました。昨日の予選も、そして雨が降った今日の朝のフリー走行も何も問題は無かったです。しかし、決勝レースでは様々な問題が起こってしまい、優勝どころか表彰台にも立てませんでした。本音を言えば、何もコメントしたくないほど怒っていますが、誰かに対して怒っているという意味ではなく、勝てるチャンスを失ったことに怒っているだけです。最後のフルブッシュは、自分でも限界まで攻めていたと思います。これからデータを解析して、ピット作業のVTRをチェックして、何が起こったのかをしっかりと把握し、対策を練らねばなりません。次の富士では、我々の本当のポテンシャルを発揮できるよう頑張りたいと思っています。



小倉 啓悟 監督コメント

土曜日の好調ぶりから考えれば、厳しい結果になってしまいました。スタート時のタイヤ選択に関しては、天気予報と気象図を考えすぎた結果だと思えますが、ピット作業の遅れと、その際のタイヤ選択に関する部分は、別の答えがあったのではと思っています。それらのミスがなければ、ふたりのドライバー、そしてチームのスタッフ全員と共に勝利の美酒を味わえたかも知れないと思うと、とても悔しい結果でした。新ルールのおかげで何とかポイント獲得はできましたが、最終結果は失格となってしまい、本当に残念です。今日のレースを教訓にし、より強いVELOREXを目指す所存です。

古場博之エントラント代表のコメント

失格の裁定は納得しかねましたが、最大過給圧が基準値を越えていたのは事実でした。ルールには厳格に従う所存です。セッション毎にGTAの検査を受け、問題があればフェラーリ派遣のエンジニアに調整をしてもらっております。今回はスタート前のグリッド上での検査で問題が無かったのに、レース後の検査で問題が発覚したのは、レース中に過給圧制御システムに何か問題が発生したと思われるので、フェラーリのエンジニアに原因究明を依頼しております。自分たちにはどうしてもできない部分でしたが、本当に残念です。それはさておき予選での速さを決勝に結びつけられなかったのは、チームの総合力が不足していたのだと思います。「たら、れば」はレースにあってはいけません。時にはギャンブルに出る勇気も必要だったと思いますし、我々挑戦者が初勝利を得るためには、攻めの姿勢が大切なのだと改めて痛感しました。VELOREXという名に恥じぬよう、次のレースでリベンジしたいと思っています。

UNI-ROBO

BLUEGRASS

WestCove

OIRC

 ヒロデンタルクリニック
Hiro Dental Clinic

 朝日金属株式会社
ASAHI

CLIMAX
SOFT99 autoservice


KOHSHIN
DRIVING SCHOOL

TONE

zahren

 SASAHARA

JOTO DIRECT


PANASHOP


ニチアス

 DOBOT


osmo
development

 見田工作

 愛知電線株式会社

Digi-Tec
INTECNO

 TAISEIDOBOKU Co., Ltd

 中部総合監査法人


EVER
CORPORATION


AOYAMA
ELEVATOR

MIDTOWN BBQ
STEAK & SMOKEHOUSE


H&A
Human & ARMS


DALWA


H&F


MAITY
MAITY MEZURANE ENGINEERING SYSTEM


PACIFIC
RACING TEAM


岡田金工株式会社


株式会社
a1 買取協会

 カトー機械株式会社

VELOREX
Fueled by Ambition

Sponsor introduction

Team Le Mans